

KU-MA とわたし

会員 こばやし てるあき 小林 輝明

「宇宙の学校」を立ち上げたのは、平成21年のこととなります。東京都新宿区で、中学校の理科教員として勤務していた私がまず取り組んだのが、仲間づくりです。声を掛け合い、賛同を得て、区内の小・中学校理科教員を中心として、都内の現職小・中学校理科教員および退職教員で構成された、『シリウスの会』を誕生させました。

シリウスの会の目的は、社会教育活動を中心とした社会貢献です。そのため、新宿区教育委員会や、新宿区内のロータリークラブ、東京青年会議所、小中学校PTA、などたくさんの方とそのつど連携して活動を積み重ねました。

そのときに心がけたことは、①個人の活動にしない、組織として取り組む②一回だけのイベントにしない、継続して実施する③学校の先生だけの活動にしない、地域を巻き込んだ社会教育として発展させるということでした。

その後会場や規模を変えながら毎年実施してきましたが、いずれも参加者はたいへん熱心に取り組み、活発な活動が見られました。工夫された教材に触れることは、参加した教員にとって授業に役立つ有益な時間でしたが、何よりうれしかったのは、老若関係なくスタッフとして加わっていた方々が、参加者の熱意に教育者としての使命感を改めて感じた毎回話されていたことです。

また、こうした新しいことを生み出すには、大変な労力と熱意を必要とするので、一人の力だけでは到底成し遂げられません。当時は区内に先輩の新田正博先生が勤務していて、新田先生のご尽力があったからこそ、心から思います。人のつながりが大きな力となることを学びました。

私たちの身の回りの自然に目を移せば、都市部では以前は身近にあった畑や野原が姿を消し、コンクリートに囲まれた人工の公園でしか土や草に触れることができなくなってしまいました。このように身近な自然が失われつつある現在では、子ども自身による観察・実験など、自然に直接触れる学習活動の重要性が一層叫ばれています。

「自然に触れる」とは、野外に出て自然の中に身を置き、からだ全体で自然を感じることでないでしょうか。そこにはいつも、美しいものへの感動、巧妙な自然のしくみへの驚き、そして自分なりの新しい発見を知る喜びがあります。

「宇宙の学校」を通して、「宇宙」に包括されるそれらのさまざまな素材を活用して、子どもたちの心に好奇心・冒険心・匠の心を育てていくというKU-MAの宇宙教育コンセプトを実践していく方が、一人でも増えることを期待しています。



宇宙の学校 開催時のお二人
写真左：新田正博さん 右：小林輝明さん

総会開催レポート

今年度の通常総会は対面とリモートの初のハイブリッド方式で開催しました。寺菌淳也さんの司会で、並木会長のあいさつから始まり、議長は上坂理事が選任されました。正会員総数157名のうち、出席数は出席と書面表決書合わせて99名で開催が成立しました。審議事項では、令和4年度事業報告、決算報告、令和5年度事業計画案、予算案と各議案の報告と説明、質問への回答を行い、全議案が承認されました。

令和4年度の成果を振り返る・・・
3年目のコロナ禍、年度初めは感染状況が少し和らぐことを期待しつつも、例年より厳しめの予算で始まった令和4年度でしたが、宇宙の学校が感染予防対策をとって対面の開催を可とし、中止や延期も少なかったことや夏前からイベントの依頼が増加、さらに教材の大量注文にも助けられ、予算を上回る決算となりました。しかし、事業収益は増加したものの、会費や寄付金は目標に届いておりませんので、喜んでばかりもいられません。やはり安定した会の運営には、会費や寄付金が不可欠ですので、増やす努力を続けなくてはなりません。

KU-MAの活動
昨今の世界や日本の将来を考えると、いのちの大切さを基盤にした宇宙教育を推進しているKU-MAの重宝が、一層増していることを強く感じます。
これからも会員の皆様のお力添えを賜りながらKU-MAの宇宙教育を広め、明るく豊かな未来づくりの活動をすすめてまいります。

総会後の会員交流会では・・・
休憩を挟んで、会員交流会にうつり、様々な経験や活動をされている方の想いや、宇宙の学校を開催したいと思っ
て参加した方など、出席者全員に自己紹介をしていただきました。あつという間に時間が過ぎ、充実した交流会となりました。まだお会いできていない会員の方にもご参加いただけるよう、会員同士の交流を深める機会を作ってまいります。



写真左から 司会の寺菌さん 会長挨拶 議長に選出された上坂理事 オンライン配信模様



写真左から リモート参加のみなさん 事務局より報告 交流会 自己紹介模様 リモートの方の自己紹介模様